



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 6, 69-72
Issue Date	1980-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25553
Type	other
File Information	6_P69-72.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (昭 和 5 4 年 度)

学 部

独 語 学 概 論		塩 谷 饒
独 文 学 史 概 説		青 柳 謙 二
独 語 学 演 習	Lyrik	E. Kleeberg
独 文 学 演 習	Wiese : Wesen und Geschichte der deutschen "Novelle seit Goethe" (前期) Hauptmann : "Bahnwärter Thiel" (後期)	青 柳 謙 二
独 文 学 演 習	Büchner : "Lenz" (前期) Realitätsstruktur moderner Erzählungen (後期)	R. Blesch
独 語 学 II	Sprachübung	E. Kleeberg
独 文 学 II	Keller : "Romeo und Julia auf dem Dorfe" (前期) Schiller : "Wallenstein" (後期)	R. Blesch

大 学 院

(修 士 課 程)

独 語 学 特 殊 講 義	ドイツ語音韻論 (集中・前期) 日独対照文法 (集中・後期)	川 島 淳 夫
独 文 学 特 殊 講 義	Meyer : "Die Versuchung des Pescara"	新 妻 篤
独 語 学 演 習	Frühneuhochdeutsch "Der Ackermann aus Böhmen"	塩 谷 饒
独 文 学 演 習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青 柳 謙 二

(博 士 後 期 課 程)

独 語 学 特 殊 演 習		塩 谷 饒
独 文 学 特 殊 演 習		青 柳 謙 二

昭和54年度 論文 題目

卒業論文

- 福島 秀子 H. Eノサックの「弟」
遠藤 幹哉 荒野の狼試論
森田 一平 liegen と stehen について

修士論文

- 伊藤 智 パウル・ツェラン試論 —— 非在の情念と詩法 ——
小沢 幸夫 ヘルマン・ヘッセに関する一考察
—— Narziß und Goldmund 評訳への試み ——
渡辺 千枝子 「緑のハインリッヒ」における「自由」の概念について

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生(学生も含む)ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため年額6,000円(教官は12,000円)の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と3名の幹事をおく、幹事は会計1名、編集委員2名とする。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独文学研究室におく。

研 究 室 行 事 記 録

- ◎ 昭和54年2月19日・20日に、昭和53年度卒業論文・修士論文発表会が、独語独文学研究室で行なわれた。
- ◎ 昭和54年7月10日に、第5回合評会が、独語独文学研究室で行なわれた。
- ◎ 昭和54年は、次の6回の研究会がもたれた。
- ・ 2月28日 (百年記念会館)
川島 淳夫：「変形の条件について」
 - ・ 6月9日 (百年記念会館)
塩谷 饒：「日独両語にみられる造語の特色」
 - ・ 6月23日 (百年記念会館)
田中 俊明：「複合語と派生語の記載について
—— 語彙的イディオムに関する一考察 ——」
 - ・ 6月30日 (独語独文学研究室)
石橋 道大：「ホーフマンスタールの詩を材料にした韻律論入門」
 - ・ 9月13日 (百年記念会館)
岡崎 忠弘：「中高ドイツ語の研究について」
 - ・ 9月22日 (百年記念会館)
川島 淳夫：「日本語生成音韻論」
- ◎ また、昭和54年は、次の4回の講演会が、北大文学部および教養部で開かれた。
- ・ 4月2日 (文学部第一会議室)
Dr. Jörg Drews (Bielefeld大学教授)：「Die Entwicklung der deutschen Prosa in den Jahren seit 1969」
 - ・ 6月13日・14日 (教養部 S-401)
Dr. Kajo Niggstich (Goethe-Institut)：
「ドイツ語学習に於けるビデオの利用について」
 - ・ 9月17日 (文学部第一会議室)
Dr. Dieter Wunderlich (Düsseldorf大学教授)：
「Modalverbenについて」
 - ・ 9月22日 (文学部第一会議室)
Dr. Eugenio Coseriu (Tübingen大学教授)：「Über Leistung und Grenzen der Kontrastiven Grammatik」

会 員 名 簿

青 柳 謙 二	植 木 迪 子	佐 藤 修 子	○田 中 俊 明
伊 藤 智	梅 津 真	佐 藤 俊 一	○藤 本 純 子
伊 藤 祐 紀 子	小 沢 幸 夫	◎塩 谷 饒	三 浦 国 泰
○石 川 克 知	加 藤 寛 蔵	神 久 聡	山 田 恵 子
石 橋 道 大	川 島 淳 夫	瀬 川 修 二	山 田 貞 三
岩 井 洋	川 東 雅 樹	高 橋 吉 文	山 田 善 久
○岩 田 聡	佐 藤 厚	田 中 剛	渡 辺 千 枝 子

◎は会長 ○は幹事

独語独文学科研究年報 第6号

昭和55年5月発行

発行者 北海道大学文学部独語独文学講座

編集委員 石川克知 岩田 聡
田中俊明 藤本純子

連絡先 北海道大学文学部独語独文学研究室内

〒060 札幌市北区北10条西7丁目

印刷所 北海道大学生協プリント部